

より有効な美しい森の利用を目指して（景観の情報発信と歩道の利用に係るアンケート調査の実施）

関東森林管理局日光森林管理署 主事 ○石川 いずみ
主事 ○三井 華
主事 ○海藤 さつき

環境省関東地方環境事務所 （前）日光国立公園管理事務所 ○江頭 樂久

1 課題を取り上げた背景

奥日光国有林は、中禅寺湖を中心に日光火山群を代表とする男体山や、日光白根山を抱え、その全域が日光国立公園にも指定されています。日本美しい森お薦め国有林にも選定されている「小田代・湯ノ湖自然観察教育林」は、区域内に栃木県や環境省により整備された遊歩道があり、年間平均9万人の方に利用されています。



（写真1）小田代原の遊歩道

今回は、本自然観察教育森の利用拡大を推進するための情報発信手法を試行するとともに、一層の魅力向上のため環境省日光国立公園管理事務所と連携し訪問者から見た施設整備等の改善点等を分析し今後役に立つことを目指してアンケート調査を実施しました。

2 取組の経過

日光森林管理署では、次の2つの取組を実施しました。

- （1）湯ノ湖から小田代原の遊歩道と西ノ湖の遊歩道を360°カメラで撮影し、令和3年11月にGoogleストリートビューに掲載しました。ストリートビューへの掲載作業は、撮影に3日、撮影した写真に必要な修正を施す作業に約5か月かかりました。

- （2）本自然観察教育林の訪問者に施設や景観等についてのアンケート調査を実施しました。実施期間は令和3年7・8月のうち3日で、訪問者にアンケート用紙を配布し、計164人から回答を得ています。

3 実行結果

- （1）掲載後の閲覧状況は、令和4年9月上旬時点で16万回以上の閲覧回数となりました。

令和4年9月には日光森林管理署ウェブサイトToStriビューの撮影ルートを図示した地図や主要ポイントへのリンクを掲載し、関心のある方々への発信力の強化を図っています。



（写真2）ストリートビューの撮影

- （2）アンケート調査の結果、木道、休憩施設等各施設についての満足度は約7割と高い傾向が見られましたが、一方で個別意見として景観に配慮して看板を設置してほしいといった意見もありました。また、景観について獣害防止資材が景観を阻害しているとの意見もありました。

4 実行結果を踏まえて

今回の取組では国有林のGoogleストリートビューを使用した情報発信効果が示されたことから、今後、作業手順等を他の職員へ共有し掲載範囲を広げることで国有林の魅力効果を効果的に発信できる可能性があると考えられます。

アンケート調査からは、訪問者の視点を知るとともに景観については職員と訪問者の間でギャップが見られ、森林整備事業の実施に当たって一層積極的に各施業の趣旨が現地理解できるような工夫の必要性を感じました。訪問者の視点に立って、環境や景観に配慮した整備の検討なども必要になってくると考えられます。